

山口県労協機関紙 連合山口・労働金庫・こくみん共済coop山口推進本部・県生協連・13地区労福協

やまぐち労福協

 vol. 205
2026.1月号

一般社団法人 山口県労働者福祉協議会

〒753-0078 山口市緑町3番29号 TEL (083) 925-7332 FAX (083) 921-1650
Eメール roufuku@orange.ocn.ne.jp

困難な時代だからこそ 一層の連帯強化を

一般社団法人 山口県労働者福祉協議会
会長 伊藤 正則

新春を迎えるにあたり、県内の働く皆さま、そして日頃より労働者福祉の推進にご尽力いただいている関係団体の皆さまに、心より新年のお慶びを申し上げます。旧年中は、本協議会の諸活動に対し多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私たちを取り巻く環境は、依然として不透明な状況が続いております。物価高や賃金格差、雇用の不安定化など、働く人々の暮らしを直撃する課題が山積する一方で、地域社会における連帯や支え合いの重要性が一層高まっています。こうした中であって、山口県労働者福祉協議会は、誰もが安心して働き、暮らせる社会の実現をめざし、各団体・地域組織と手を携えて取り組みを進めてまいります。

本年は特に、「つながり」と「共生」をキーワードに、勤労者の生活支援、若年層への福祉啓発、そして地域福祉活動のさらなる充実に力を注いでまいります。困難な時代だからこそ、助け合いの輪を広げ、希望を次の世代へつなぐことが、私たちの使命であります。

加えて、誰もが笑顔で暮らせる地域づくりをめざし、働く仲間と共に知恵を出し合い、確かな歩みを重ねてまいります。

人々が将来に不安を抱え、若者が未来を描けず、子どもたちが夢を持てない！こんな時代だからこそ、私たちは、あらゆる困難を「心をついに」とともに乗り越えてまいります。

新しい年が、すべての働く人々にとって健康で実り多い一年となりますよう心から祈念申し上げます。新春のごあいさつといたします。

一般社団法人 山口県労働者福祉協議会
生活あんしんネット
しゅうなん若者サポートステーション
パーソナル・サポートセンターやまぐち



年頭ごあいさつ

労働者福祉中央協議会
会長 芳野 友子

新年明けましておめでとうございます。

昨年は政治情勢が大きく変化しましたが、ここ数年続いている物価上昇により、国民生活の厳しい状況は改善されていません。

加えて、労福協が進める「高等教育費負担軽減」の取り組みについては、昨年3月に大学等修学支援法の一部が改正されましたが、支援対象は一部の拡充に留まっています。私たちには引き続き、教育の機会均等や奨学金制度の改善を通じて、誰もが安心して学ぶことのできる社会の実現に向けた取り組みが求められています。

また、2025国際協同組合年を契機に展開しました取り組みは、協同組合運動の振興と労働者福祉運動の発展に向けて、加盟団体との連携に加え、地域の様々なネットワークとも連携し、具体的な対応を進めていきます。

社会は大きく変化していますが、「すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくる」労福協の理念に基づき、本年も力強く取り組みを展開していくことをお誓い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



希望を持って暮らせる 山口県への挑戦

山口県知事
村岡 嗣政

明けましておめでとうございます。

山口県労働者福祉協議会の皆様方におかれましては、新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、本年が飛躍の年となりますことを、心からお祈り申し上げます。

また、伊藤会長をはじめ貴協議会の皆様方には、平素から、県政の推進に格別のご理解とご協力を賜りますとともに、労働者福祉の向上に向けた活動に積極的に取り組んでおられますことに対し、心から敬意を表し、厚くお礼申し上げます。

さて、本県では少子高齢化の進行や若者を中心とした大都市圏への人口流出によって、人口減少が一段と厳しさを増し、あらゆる分野で人手不足が深刻化しています。

この流れを食い止め、人手不足対策を抜本的に強化するため、今年度新たに、本県からの転出者が多い福岡県に本県での暮らしや仕事をワンストップで相談できる拠点を設置したほか、若い世代を対象とした住宅取得支援制度を創設するなど、若者の県内定着に向けた取組を一層強化するとともに、若者の視点を取り入れた企業の魅力向上や、賃上げや働き方の改善に取り組む企業に対し、奨励金を支給するなど、若者が働きやすい職場環境づくりもしっかりとサポートしているところです。

私は、県民誰もが将来に希望を持って暮らし続けられる山口県を実現するため、未来を切り拓く挑戦を続けてまいりますので、どうか、貴協議会の皆様方には、引き続き一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山口県労働者福祉協議会のご発展と皆様方のご健勝、ご活躍を祈念して、新年のご挨拶といたします。



「共生・共助」 の理念を大切に！

連合山口
会長 中元 直樹

新年明けましておめでとうございます。

日本社会は、急速な少子化を伴いながら、高齢化と人口減少が進んでいます。生産年齢人口の減少は、慢性的な人手不足として職場に影響を及ぼし、持続的な経済発展の制約要因としても大きな課題となっています。

そして、少子高齢化の加速により、年金・医療・介護などの社会保障制度の持続可能性も問われています。

安心・信頼できる制度の構築、将来世代に責任を果たす観点から、給付と負担の在り方を含む歳出・歳入の両面にわたる全体的な議論を急ぐ必要があります。

また、日々のくらしに目を向けると、賃金上昇の流れは着実に広がっているものの物価上昇に追いつかず、家計は厳しさが続いています。とりわけ生活困窮層や非正規雇用で働く人々に深刻な影響が及んでいます。

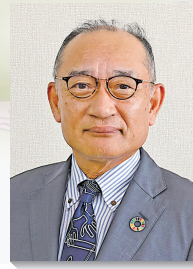
まさに今、将来への希望と安心感を持てる局面に移行できるか否かの岐路にあります。物価を上回る持続的な賃上げを定着させるべく引き続き取り組むとともに、雇用と生活のセーフティネット拡充、恒常的な居住保障の仕組み、生活困窮層への支援の拡充などの政策・制度を一つひとつ着実に実現していく必要があります。

このような情勢を踏まえ、労働者を守る観点からも私ども連合を含め、労福協に集う労働者福祉団体の取り組みがこれまで以上に必要となってきます。

今こそ、労福協運動の原点である「共生・共助」の精神を運動の根底に置き、これまで取り組んできた暮らしの総合支援を始めとする、勤労者の福祉の向上はもとより、政策・制度要求の実現や社会貢献活動などの取り組みを一層強化していかなければなりません。

労福協に集う団体がそれぞれの強みを活かしつつ、運動の価値を共有し、最大限の相乗効果を発揮してまいりましょう。

新しい年が、皆様にとって幸多き年でありますよう、心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



人と人のつながり、 信頼の絆を大切に！

山口県生活協同組合連合会
会長理事 岡崎 悟

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、山口県労働者福祉協議会をはじめ、関係各位の皆様より多大なるご支援とご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

国際社会に目を向けますと、ロシアによるウクライナ侵攻は4年近くが経過し、いまだ終結の兆しが見えません。多くの命と暮らしが脅かされる中、私たちは改めて平和の尊さを胸に刻む必要があります。

そうした中、一昨年には被団協（日本原水爆被害者団体協議会）がノーベル平和賞を受賞し、平和を願う私たち一人ひとりにとって大きな希望となりました。さらに、昨年2025年は「国際協同組合年」として、世界中で協同の価値が見直され、地域社会における連帯と共助の力が改めて注目されました。私たち生協もその一翼を担う存在として、地域に根ざした活動に取り組んでまいりました。

国内の状況に目を移しますと、物価上昇が続く、私たちのくらしに大きな影響を及ぼしています。こうした時代だからこそ、「平和とより良いくらし、地域づくり」という生協の理念を改めて胸に刻み、人と人とのつながりや信頼の絆を大切にしながら、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指し、引き続き取り組んでまいります。

本年も、山口県生協連ならびに各会員生協への変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。





中国労働金庫西部エリア営業本部
本部長 網戸 茂

“存在意義(パーパス)” および “提供価値(バリュー)” を常に意識した改革の前進！！

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、中国労働金庫に対しまして格別のご理解とご協力を賜り、心より感謝を申し上げます。

さて、我が国の経済状況は、物価上昇の影響や国際情勢の不安定化により依然として厳しい環境にある中で、昨年は、労福協運動の柱である「共助」の役割発揮が必要不可欠であることから、労働団体と福祉事業団体がともに協同して安心・共生の福祉社会の実現に向けて、労福協に集う仲間の皆様へ労働者自主福祉運動として、「生活設計、生活防衛、生活改善」を図るため、生活応援運動の根幹でもあります「家計の見直し運動」を各地区で展開をさせていただきました。

その中で、多くの方からいただいたご意見は、名目賃金は上昇しているにも関わらず実質賃金は減少しており、生活環境は依然厳しい状況にあるとの声が聞かれる中で、可処分所得向上に向けてそれぞれのライフプランを踏まえた「家計の見直し」が必要であり、本年度も引き続き、労働者自主福祉運動をより積極的に推進し、地域や職場において「支え合い・助け合い」の機能を発揮させることで誰もが安心して暮らせる持続可能な社会の実現につながらなければなりません。

こうした状況を踏まえ、労福協としまでも仲間の力を結集し、「すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・協同で安心・共生の福祉社会の実現」に向け共に、力強く運動を前進させてまいります。

当金庫においても、直面する厳しい社会環境や働く人々のニーズが大きく変化・多様化する中で、働く人々のそばに常に居られる存在となることこそが、労働金庫が将来にわたり存在し続けることにつながるものと考えています。

そのためには、当金庫で働く役職員が、“存在意義(パーパス)” および “提供価値(バリュー)” を常に意識したうえで改革を進めていくことが必要であることから、役職員が一丸となり、力を合わせて取組みを邁進してまいります。

新しい年が皆様にとって幸多き年でありますよう、心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。本年も宜しくお願い致します！！

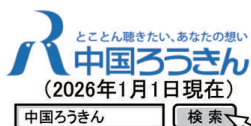
あけまして
おめでとうございます

本年もよろしく
お願い申しあげます。

二〇二六年 元旦

ろうきん
イメージモデル
森川 葵

●くわしいお問い合わせ・ご相談は



中国労働金庫

中国ろうきん ホームページ <https://www.chugoku.rokin.or.jp/>

『みんなでつくる、これからのたすけあい』

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、こくみん共済coopの共済活動に対し、さまざまなご支援ご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

さて、2025年を振り返りますと、国内で自然災害が相次ぐ中、世界ではウクライナ情勢やイスラエル・イランの「12日間戦争」など、依然として予断を許さない状況が続いています。また米国トランプ政権の相互関税の発動による日本経済への影響や原材料価格・人件費・物流費などの高騰を起因とする国内物価の上昇が続いており、賃金改善の明るい兆しはみられるものの、物価上昇による生活への影響も一定程度、継続するものと考えられます。

自然災害の頻発化や人口減少・少子高齢化などの重大な課題に加えて、日々の家計はひっ迫の度を増していることから、生活者にとって依然として厳しい状況が続いているといえます。人びとのくらしに苦しさが見られるときこそ、生活協同組合はその存在価値の発揮が期待されます。

こくみん共済coopとしても、たすけあいを旨とする共済生協としてその原点に立ち返り、働く人びと・生活者との連帯・運動を基盤にしながら、理念である「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」をすすめていきたいと考えています。

本年もよろしくお願いいたします。



こくみん共済coop山口推進本部
本部長 榎本 康仁

あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願いいたします。



公式キャラクター ピットくん



たすけあいの輪をむすぶ

こくみん共済

全国労働者共済生活協同組合連合会 **coop**
山口推進本部（山口県労働者共済生活協同組合）

こくみん共済 **NEWS**

第47回福祉メーデー山口県集会 開催

スローガン すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・共同で安心・共生の福祉社会をつくろう！

第47回福祉メーデー山口県集会



ー伊藤会長ー

2025年11月6日（木）山口市にて、福祉メーデー山口県集会を開催し、地区労福協や福祉事業団体・労働団体などから56名が参加しました。

冒頭、伊藤会長が「今集会で、対県要請の内容と各福祉事業団体からの提起についてご確認いただくとともに労福協運動の意義や果たすべき役割の理解を深めて、公助と共助の輪を広げ、これからの活動に繋げていきたい。」と挨拶しました。

基調報告では、県労福協より、労働者自主福祉運動の推進を目的とした福祉強化キャンペーンの一環として、福祉メーデーを開催していることや、キャンペーンの具体的な取り組み内容と、2026（令和8）年度対県要請について提起しました。

続いて、中国労働金庫山口支店の西村昂大代理より「ろうきんを通じた社会貢献活動について」、こくみん共済coop山口推進本部事業推進部の田中晋次長より「今後の共済活動について（組合員を取り巻く環境から）」、生協連の荒瀬泰専務理事より「国際協同組合年のお知らせ」として、それぞれ取り組み紹介や課題の報告がありました。

最後に集会宣言と集会スローガンの採択を全体で行い閉会しました。

令和8年度 勤労者福祉の充実・強化に関する要請書を県に提出

11月19日（水）山口県庁で、第47回福祉メーデー山口県集会にて確認した「令和8年度勤労者福祉の充実・強化に関する要請書」を永田明生産業労働部長に手交しました。冒頭、伊藤会長は「勤労者を取り巻く環境は賃上げ・処遇改善が加速しているが、その一方で、物価の上昇や教育費の負担増など、未だ多くの方が困難な生活を余儀なくされており、所得格差や貧困の連鎖・拡大がこれまで以上に懸念されている。持続可能性と包摂性を基底に誰一人取り残されない社会の実現が求められている。」として、要請内容の検討を求めました。

要請項目の趣旨説明と意見交換後、永田部長は「関係部局に要請内容を伝え、各課題に対して検討を行っていく」と述べられました。

この対県要請書への回答は2026年2月に行われる予定です。



ー永田産業労働部長へ
要請書を手交ー

【山口県への要請事項】

I. 制度・施策の改善と充実について

1. 安心して暮らせる福祉社会の実現
 - (1) 物価高騰に伴う生活支援の拡充
 - (2) 結婚・出産・子育て環境の充実
 - (3) 奨学金返還支援制度の拡充
 - (4) 地域における医療・介護提供体制の充実
 - (5) 自然災害等に対する防災力の強化
 - (6) 労働福祉金融制度の周知と制度の拡充

II. 労働者福祉事業の育成強化について

1. 労福協事業に対する援助
 - (1) 生活あんしんネット事業
 - (2) しゅうなん若者サポートステーション事業
 - (3) 生活協同組合への指導援助事業

2. 誰もが活躍できる地域社会の実現

- (1) 働きやすい職場環境づくりの推進
- (2) 若者や女性が希望する魅力ある雇用創出と県内就職・定着の支援
- (3) 高齢者・障がい者が活躍できる環境づくりの推進

3. 地方消費者施策の充実

- (1) 生活協同組合事業の活動支援



県労福協チャリティーゴルフ大会 報告

10月4日(土) 宇部72カントリークラブ 阿知須コースで県労福協チャリティーゴルフ大会を開催しました。この大会は会員相互の親睦と交流を深める目的で2023年度より開催しており、各地区労福協・労働団体・福祉事業団体より15チーム60名が参加しました。当日は朝から曇天で雷を心配しながらのプレーとなりましたが、無事終了しました。



【団体優勝】 宇部地区労福協
(セントラル硝子労組宇部支部)

結果は、団体の部は宇部地区労福協(セントラル硝子労組宇部支部)が、個人の部は宇部地区労福協(セントラル硝子労組宇部支部)の水戸裕之さんが優勝されました。

参加者のみなさまにご協力いただいたチャリティー募金は12月4日(木)開催の地区労福協会長・事務局長会議の際にフードバンク山口へ寄附しました。

<団体賞>

順位	団体名	(敬称略) スコア (NET平均)
優勝	宇部地区労福協(セントラル硝子労働組合) 水戸裕之、村上 渉、大嶋将幸、藤田 修	78.00
準優勝	光地区労福協(日鉄溶接労働組合光支部) 内山泰成、宮崎潤一、吉田 弘、有海 悠	78.05
3 位	下松地区労福協(東洋鋼鈑労働組合) 小林義則、大濱克佳、武内 寛、永尾直喜	78.15

<個人賞>

順位	氏 名・所 属	(敬称略) スコア	
		(NET)	(GR)
優勝	水戸裕之 (宇部地区労福協:セントラル硝子労働組合宇部支部)	70.6	83
準優勝	森川保二 (周南地区労福協:トクヤマ労働組合)	72.0	100
3 位	村上 渉 (宇部地区労福協:セントラル硝子労働組合宇部支部)	74.2	83

2025年度地区労福協会長・事務局長会議 報告



12月4日(木)、地区労福協会長・事務局長会議を開催し、地区労福協・労働団体・福祉事業団体から29名が出席しました。はじめに、県労福協より、チャリティーゴルフ大会や勤労者文化展の結果報告等を行った後、各地区労福協から2025年度中間活動報告を行いました。社会貢献活動として、自治体や連合地協と協働して地域の公園や



高齢者施設の清掃活動を行っている地区や地域の祭りやバザーの会場設営準備・後片付けのボランティアを行った地区、また、スポーツ大会やバス旅行等で会員間の親睦交流を深めている地区など、様々な取り組みが報告されました。

会議の中で、10月4日(土)開催のチャリティーゴルフ大会で募ったチャリティー募金等合計10万円をNPO法人フードバンク山口へ贈呈しました。贈呈式にはフードバンク山口から今村主税代表が出席、謝意とともに、「食品寄贈が減少や運営資金の不足など課題が多い。引き続きご支援いただきたい。」と支援を呼びかけられました。



ーフードバンク山口
今村代表へ目録を贈呈ー

労働者自主福祉運動リーダー養成講座 開催

12月6日(土) 山口市で、労働者自主福祉運動の意義を理解し、支え合いの担い手として成長することを目的として、労働者自主福祉運動リーダー養成講座を開催しました。県労福協では初の試みとなるこの講座には若年層から中堅まで48名が参加しました。講座では、中央労福協・労働金庫・こくみん共済coopの講師による専門的な見解や経験談を聴講しました。



中央労福協
参与 南部美智代さん

はじめに中央労福協参与の南部美智代さんから「働く人が助け合う仕組みと歴史」と題して、“福祉はひとつ”で始まった労働者自主福祉運動の歴史や、労福協と労働団体・福祉事業団体とのつながり、また労福協の現在の取り組みについて講演いただきました。

南部さんは、これからの組織のあり方として“ネットワーク社会”を挙げ、「異なった立場や団体が連携して同じ目的達成のために力を合わすことが必要。労働者自主福祉運動という共助の仕組みで“すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・協同で安心・共生の福祉社会”をつくろう」と締めくくられ

ました。続いて、こくみん共済coop山口推進本部の原田孝志事業推進部長より「共済運動について」のDVD視聴・説明があり、大正から昭和にかけて活躍した生協の父 賀川豊彦の生涯に触れ、相互扶助の原型である共立商店や友子制度、ろうきんやこくみん共済coopの発足の歴史などを紹介されました。

最後にろうきん運動推進アドバイザーの河村典子さんより「労働者福祉活動とろうきん」について、お金の話・取り巻く環境・労金の利用などを実体験を含めてお話いただきました。物価やカーライフローンについて身近な例を挙げた分かりやすい説明に参加者は熱心に聞き入っていました。

この講座が、労福協や福祉事業団体の成り立ちや取り組みについて理解を深める機会となり、一層の利用促進につながるようさらに推進してまいります。

【終了後のアンケート(抜粋)】

- 労福協の成り立ちが分かりやすかった。
- 公助・共助についてよく理解できた。
- 改めて相互扶助の大切さを認識した。
- 労働者自主福祉運動の役割について理解が深まった。
- 「リーダーではなくファシリテーターが必要」ということに共感した。
- ろうきんやこくみん共済coopの事業をもっと推進しようと思った。

第35回山口県勤労者文化展 報告

11月5日(水)~13日(木)まで、山口市「労福協会館」で開催した文化展には、写真の部31点、絵画の部17点を展示しました。「毎年楽しみにしている」という観覧者もあり、今年も多数のみなさまにご観覧いただきました。観覧者による投票結果は、右記のとおりです。



《写真の部》

賞	作品名	作者名	地区労福協(所属団体等)	
山口県労福協会長賞	光条やけえ	泉 慎之介	防府	三國重工業(株)山口工場
中国労働金庫 西部エリア営業本部長賞	爆 走	松岡なほん	下松	日立ハイテク労働組合笠戸支部
こくみん共済coop 山口推進本部長賞	ここが私の 『ANOTHER SKY』	林 愛	防府	三國重工業(株)山口工場
連合山口会長賞	和 み	吉村真弓	防府	マツダ労働組合
山口県生協連会長賞	朝霧の光芒	梨木教史	美祢	NGKエレクトロデバイス労働組合

《絵画の部》

賞	作品名	作者名	地区労福協(所属団体等)	
山口県労福協会長賞	夜明け前	山本初恵	萩・阿武	萩地区ろうきん友の会
中国労働金庫 西部エリア営業本部長賞	三見橋	手嶋弘靖	宇部	UBEマシナリー(株)
こくみん共済coop 山口推進本部長賞	港の一画	原田富士子	下松	津永産婦人科
連合山口会長賞	周南コンビナート群	蔵澄敦子	周南	
山口県生協連会長賞	錦帯橋 春	坂本直子	岩国	全駐労山口地区本部